

徳島大学大学院先端技術科学教育部知的力学システム工学専攻（博士前期課程）
建設創造システム工学コース 学位論文審査基準

修士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し評価する。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること。

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること。

③ 結論の妥当性

結論が論理的且つ明確に導出されていること。

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること。

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること。

徳島大学大学院先端技術科学教育部知的力学システム工学専攻（博士後期課程）
建設創造システム工学コース 学位論文審査基準

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し評価する。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること。

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること。

③ 結論の妥当性

結論が論理的且つ明確に導出されていること。

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること。

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること。

徳島大学大学院先端技術科学教育部知的力学システム工学専攻（博士前期課程）
機械創造システム工学コース 学位論文審査基準

修士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が機械工学の分野において専門的な業務に従事するために必要な、研究能力及びその基礎となる学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に独創性が認められること

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること

⑥ 総合力

専門的な業務に従事するために必要な倫理観、技術力、研究能力及びその基礎となる学識を有すると認められること

徳島大学大学院先端技術科学教育部知的力学システム工学専攻（博士後期課程）
機械創造システム工学コース 学位論文審査基準

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が機械工学の分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の倫理観、技術力、研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること

徳島大学大学院先端技術科学教育部物質生命システム工学専攻（博士前期課程）
化学機能創生コース 学位論文審査基準

修士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が化学の分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の倫理観、技術力、研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること

徳島大学大学院先端技術科学教育部物質生命システム工学専攻（博士後期課程）
化学機能創生コース 学位論文審査基準

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が化学の分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の倫理観、技術力、研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること

徳島大学大学院先端技術科学教育部物質生命システム工学専攻（博士前期課程）
生命テクノサイエンスコース 学位論文審査基準

修士の学位論文は、以下の項目について論文審査および最終試験（口頭発表）を行うことによって評価し、その結果を総合的に判断して合否を決定するものとする。

- ① 専門的知識の習得度
生命科学研究領域における修士としての十分な基礎的および専門的知識を修得しているか。
- ② 研究目的の妥当性
提出された修士論文において、当該研究領域における研究の背景、位置づけ、目的が適確に述べられており、修士論文として妥当な内容となっているか。
- ③ 研究計画・考察の妥当性
設定した研究テーマに対して、適切な研究計画、実験方法が立案されており、且つ得られた結果に対して妥当な分析と考察がなされているか。
- ④ 論文の一貫性
論文の記述（本文、図、表、参考文献など）が必要且つ適切であり、結論に至るまで首尾一貫した論理構成になっているか。
- ⑤ 新規性および独創性
当該研究領域の理論的見地または実証的見地から見て、修士論文としての新規性や価値を有するものとなっているか。
- ⑥ 外国語能力
研究を遂行する上で必要となる文献読解等に関する外国語能力が十分なレベルに到達しているか。
- ⑦ 社会・学会等への貢献
研究成果の社会への貢献、生命科学研究領域の発展に貢献できる学術的な価値が含まれているか。
- ⑧ 総合力
生命科学研究領域における高度な知識と技術を有し、学際的および独創的な考えで問題・課題解決に取り組み、地域・国際社会に貢献できる研究者及び専門職業人として認められるか。

徳島大学大学院先端技術科学教育部物質生命システム工学専攻（博士後期課程）
生命テクノサイエンスコース 学位論文審査基準

博士の学位論文は、以下の項目について論文審査および最終試験（論文公聴会）を行うことによって評価し、その結果を総合的に判断して合否を決定するものとする。

- ① 専門的知識の習得度
生命科学研究領域における博士としての十分且つ高度な専門的知識を修得しているか。
- ② 研究目的の妥当性
提出された博士論文において、当該研究領域における研究の背景、位置づけ、目的が適確に述べられており、博士論文として妥当な内容となっているか。
- ③ 研究計画・考察の妥当性
設定した研究テーマに対して、適切な研究計画、実験方法が立案されており、且つ得られた結果に対して妥当な分析と考察がなされているか。
- ④ 論文の一貫性
論文の記述（本文、図、表、参考文献など）が必要且つ適切であり、結論に至るまで首尾一貫した論理構成になっているか。
- ⑤ 新規性および独創性
当該研究領域の理論的見地または実証的見地から見て、博士論文としての新規性や価値を有するものとなっているか。
- ⑥ 外国語能力
論文執筆及び研究を遂行する上で必要となる文献読解等に関する外国語能力が十分なレベルに到達しているか。
- ⑦ 社会・学会等への貢献
研究成果の社会への貢献、生命科学研究領域の発展に貢献できる学術的な価値が含まれているか。
- ⑧ 総合力
生命科学研究領域における高度な知識と技術を有し、学際的および独創的な考えで問題・課題解決に取り組み、地域・国際社会に貢献できる自立した研究者及び高度専門職業人として認められるか。

徳島大学大学院先端技術科学教育部システム創生工学専攻（博士前期課程）
電気電子創生工学コース 学位論文審査基準

修士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が電気電子工学の分野において、専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること

⑥ 総合力

専門的な業務に従事するために必要な倫理観、技術力、研究能力、エンジニアリングデザイン能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究活動を行うことができること

徳島大学大学院先端技術科学教育部システム創生工学専攻（博士後期課程）
電気電子創生工学コース 学位論文審査基準

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が電気電子工学の分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の倫理観、技術力、研究能力、エンジニアリングデザイン能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること

徳島大学大学院先端技術科学教育部システム創生工学専攻（博士前期課程）
知能情報システム工学コース 学位論文審査基準

修士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が情報通信及び知能工学の分野において、研究者として研究活動を行い、又はその他の専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、解決方法、結論等に注目すべき独創性が認められること

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の倫理観、技術力、研究能力、コミュニケーション能力、情報収集・発信能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること

徳島大学大学院先端技術科学教育部システム創生工学専攻（博士後期課程）
知能情報システム工学コース 学位論文審査基準

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が情報通信及び知能工学の分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に即戦力として従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践しているだけでなく、それをヒントに新しいものを生み出す可能性を有していること

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、解決方法、結論等に注目すべき独創性が認められること

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が大いに期待され、又は当該研究領域の発展へ多大に貢献する学術的価値が認められること

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に即戦力として従事するに必要な高度の倫理観、技術力、研究能力、コミュニケーション能力、情報収集・発信能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること

徳島大学大学院先端技術科学教育部システム創生工学専攻（博士前期課程）
光システム工学コース 学位論文審査基準

博士前期課程の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が専門的な業務に従事する際、光応用工学を基盤とする高度な研究能力を持ち、また、その基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に学術的及び社会的意義があると認められること

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の倫理観、技術力、研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること

徳島大学大学院先端技術科学教育部システム創生工学専攻（博士後期課程）
光システム工学コース 学位論文審査基準

博士後期課程の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が光応用工学の分野において、研究者・技術者として自立した研究活動、又は高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること

④ 独創性（オリジナリティ）

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の倫理観、技術力、研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること

徳島大学大学院先端技術科学教育部学位論文提出基準

課程博士	論文博士
<p>(参考論文)</p> <p>① 申請者によって執筆され、学位論文の主要な内容が記述された公刊論文又は公刊されることが証明された論文原稿をいう。</p> <p>② 原則として、学位申請者が主として寄与した研究成果を申請者自身が執筆し、権威ある学術雑誌に投稿して査読の結果受理された主論文が1報以上必要。</p> <p>③ 公刊論文として、さらに数編程度の副論文があることが望ましい。</p> <p>④ 主論文が学位申請者を含む複数の著者によって執筆された共著論文の場合には、その論文の成果が主として学位申請者が寄与したものであり、主要部分が申請者によって執筆されたものであることを、すべての共著者が署名捺印の上証明する承諾書の提出が必要。なお、指導教員が論文提出について共著者の承諾を得ている場合は、承諾確認書をもってこれに代えることができる。</p> <p>(主論文)</p> <p>⑤ 主論文は、学位申請者の単著又は筆頭著者であることが望ましいが、特別な事情によってそうでない場合には、承諾書(その論文の成果が主として学位申請者が寄与したものであり、主要部分が申請者によって執筆されたものであることを、すべての共著者が署名捺印の上証明する書類)又は承諾確認書(指導教員が論文提出について共著者の承諾を得ていることを証明する書類)を提出させるとともに、審査委員はその事情を本教育部教授会で説明するものとする。</p> <p>(副論文)</p> <p>⑥ 副論文とは、学位申請者が参加した研究の成果を共同執筆した同種の公刊論文をいう(単著又は筆頭著者であることを問わない)。申請者が筆頭著者として執筆し、著者自身が発表した国際会議論文なども含む。</p> <p>⑦ 論文内容要旨 和文 1,200 字程度又は英文 600 語程度</p>	<p>(論文提出による参考論文)</p> <p>① 申請者によって執筆され、学位論文の主要な内容が記述された公刊論文又は公刊されることが証明された論文原稿をいう。</p> <p>② 原則として、学位申請者が主として寄与した研究成果を申請者自身が執筆し、権威ある学術雑誌に投稿して査読の結果受理された主論文が3報以上必要。</p> <p>③ 公刊論文として、さらに数編程度の副論文があることが望ましい。</p> <p>④ 主論文が学位申請者を含む複数の著者によって執筆された共著論文の場合には、その論文の成果が主として学位申請者が寄与したものであり、主要部分が申請者によって執筆されたものであることを、すべての共著者が署名捺印の上証明する承諾書の提出を必要とする。</p> <p>(論文提出による主論文及び副論文)</p> <p>⑤ 主論文及び副論文については、それぞれ課程博士の規定を準用する。</p> <p>⑥ 論文内容要旨 和文 1,200 字程度又は英文 600 語程度</p>